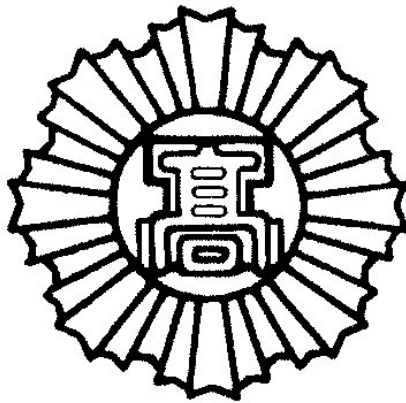


平成 29 年度
学校評価結果報告書
(中間評価)



広島県立広島工業高等学校

目 次

- 1 様式3【平成29年度自己評価シート（中間評価）】・・・・・・・・ 1
- 2 様式4【平成29年度自己評価シート（中間評価まとめ）】・・・ 7
- 3 様式7【平成29年度学校関係者評価シート（中間評価）】・・・ 10

平成29年度自己評価シート(中間評価)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

学校経営目標							
達成目標	本年度行動計画	目標値	実績値	評価	理由	担当部等	
1 ものづくり人材の育成							
各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRや資格取得ネームプレート等の掲示物での啓発 ・資格検定試験の日程一覧表を作成する。 ・各学科における2学年終了時の資格取得目標個数の設定 ・資格取得計画の作成 	認定者数 48人	認定者数 23人	B	(教育研究部) ジュニアマイスター前期 ・ゴールド 12名 ・シルバー 11名 計 23名 資格・検定の日程を一覧にして、各クラスに掲示した。資格取得ネームプレートを開始し、掲示して啓発した。	教育研究部 2学年会	
ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・より早期の選手候補生徒を確定し、計画的で質の高い指導を実施 ・外部講師、SETの活用 ・教職員の技術向上研修など、指導体制の充実 	中国大会 9 全国大会 7	中国大会 6 全国大会 6	B	(機械科) 若年者ものづくり競技会フライス盤作業敢闘賞受賞。高校生ものづくりコンテスト中国地区大会旋盤作業部門3位に入賞した。	工業科	
				C	(電気科) 電気工事・電子回路組立の2部門に出場したが中国大会には出場できなかった。		
				B	(建築科) 高校生ものづくりコンテスト中国大会木材加工部門で、優勝し、全国大会出場を決めた。		
				B	(土木科) 高校生ものづくりコンテスト中国大会測量部門で優勝し、全国大会出場を決めた。		
工業分野の有識者と連携し、実践的な知識・技術・技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・熟練技能者等による生徒への指導の参観 ・熟練技能者等の教職員研修での活用 	10回	8回	A	SET(Super Engineering Teacher)や熟練技能者による技能向上のための授業を実施した。	工業科	
				各学科が推奨する工業分野の資格を取得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・熟練技能者等の教職員研修での活用 ・指導体制の整備 ・資格取得意識の向上のための啓発 		取得者数 107人
取得者数 99人	取得者数 73人	A	(電気科) 第2種上期受験結果 73人合格(受検者 81人)で、ある程度成果を得た。現在、第1種(受験 46人)ならびに第2種下期(受験 3人)について補習を行い指導中である。				

電 気 科 : 第 1 種 ・ 第 2 種 電 気 工 事 士 建 築 科 : 建 築 施 工 管 理 士 2 級 + 技 能 検 定 (左 官 2 ・ 3 級 , と び 2 ・ 3 級 , 建 築 大 工 2 ・ 3 級) 土 木 科 : 2 級 土 木 施 工 管 理 技 術 検 定 + 測 量 士 , 測 量 士 補 化 学 工 学 科 : 危 険 物 取 扱 者	取得者数 80人	取得者数 36人	B	(建築科) 建築施工管理技術検定2級 4人が取得した。技能検定 において、建築大工3級6 人、とび3級12人、左官3級 13人、左官2級1名、前期 で合計36人取得した。
	取得者数 8人	取得者数 7人	B	(土木科) 測量士補7人(受験10人) 合格した。
	取得者数 10人	取得者数 7人	A	(化学工学科) 危険物取扱者乙種1類 1 名 2類 2名 4類 3名 5 類 1名 の7名合格してい る。

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- ジュニアマイスター認定者数は、本年度前期が23名と、昨年度前期と同数だが、ゴールドの人数が増加した。
- 年度当初に取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し、クラス掲示した。
- 資格取得ネームプレートを5月に開始し、随時更新しつつ、運用している。

(2) 課題

- ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識をさらに高め、機運を高めていかなければならない。

【今後の改善方策】

- 資格取得ネームプレートで上位資格取得者を掲示し、ジュニアマイスター認定を啓発する。
- 学年会で、各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることで、ジュニアマイスター認定を啓発する。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 高校生ものづくりコンテスト 測量部門は4年連続、木材加工部門は3年連続、化学分析部門は2年ぶりに出場する。
- 若年者ものづくり競技会 職種プライス盤作業に広島県代表として参加し、参加者28名中、敢闘賞(10位)を受賞した。

(2) 課題

- 高校生ものづくりコンテストについては、中国地区大会に4部門中3部門が優勝し、全国大会出場となった。全国大会出場に向け、さらなる技能向上の取組が必要である。

【今後の改善方策】

- 出場する選手の技術・技能向上が進んでおり、簡単に上位に入ることが難しくなっている。安全作業を徹底しながら、加工及び作業精度を上げるなど、すべての面で質の高い練習を実施する。
- 社会人外部講師であるSETを活用して、生徒とともに教職員も教授いただく。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- SET及び専門的知識・技術を持つ地域の社会人特別非常勤講師には、授業において専門の技能向上に係る指導を行っていただいた。SETには放課後も広島県版技能検定、国家技能検定対策について、生徒に指導をしていただいた。
- SET、企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。

(2) 課題

- 生徒の技能向上には、本来指導する教職員自身がスキルアップしていく必要がある。

【今後の改善方策】

○教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、技術・技能の指導力を高め、SET と協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

学 科	学科が推奨し合格した資格・検定	合格人数
機械科	2 級技能士旋盤作業 (3/5), 2 級技能士フライス盤作業(1/2), 2 級技能士鋳造作業 (0/2), 3 級技能士旋盤作業(6/7), 3 級技能士鋳造(10/10), 3 級技能士機械検査(1/2)	21人
電気科	第 2 種電気工事士(上期結果 73 人/81 人), 第 1 種電気工事士((自己採点による筆記試験合格予定者)34/受験 46 人) 第 2 種下期((自己採点による筆記試験合格予定者 3 人)/受験 3 人)	73人
建築科	建築大工3級6人(受検6人), とび3級12人(受検12人), 左官3級13人(受検13人)・2級1人(受検1人) 2級建築施工管理技術検定4人(受検 73人)	36人
土木科	測量士補 7人(受験 10人)	7人
化学工学科	危険物取扱者乙種1類 1名 2類 2名 4類 3名 5類 1名 (受験 22人)	7人

(2) 課題

○資格合格者の増加と、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。

【今後の改善方策】

○教職員が、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。

2 選ばれる学校づくり						
入学希望者の増加を目指す。	・中学生にわかりやすいオープンスクールの中身づくり ・学校案内(リーフレット)の作成 ・中学校訪問での中学校の教員(進路指導主事・3学年主任・技術の教員)との連携強化	入学者選抜 I・II 平均倍率 1.28 以上	—	A	(総務部) オープンスクールを計画どおり4回実施した。中学校訪問は1回実施し、2 回目の計画をしている。	総務部
	・クラブ紹介・オリエンテーション等において、クラブ加入を呼びかける。 ・クラブの成績や結果を年1回以上 HP へ掲載する。	運動部県大会入賞 36 以上 運動部中国大会出場 15 以上 運動部全国大会出場 3 以上	運動部県大会入賞 49 運動部中国大会出場 14 運動部全国大会出場 6	B	(総務部) 県大会入賞数は中間報告時点で大きく昨年を上回った。中国大会・全国大会の出場者数も順調である。	
		加入率 91.5%以上	加入率 77.8%	C	(総務部) 部活動加入率は昨年度より若干下回っているが、高水準は維持している。	

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

【評価結果の分析】

(1) 成果

○広島県内の中学生が減少する中、昨年度と同水準の参加状況となった。

○オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は 98.6%で昨年度を上回ることができた。

(2) 課題

○中学生参加人数増加に向けた取組みが必要である。

【今後の改善方策】

- 本校の各中学校担当者が、中学校教員と密に連携し、中学生の参加を募る。
- 中学生が、高校について知りたい、教育内容、主な行事、部活動、進路状況など掲載したリーフレットやポスターを作成し、教室に掲示していただき、本校の魅力ある情報を提供する。

<クラブの活性化>

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 全国大会出場は昨年より増え、中国大会出場については昨年度並みである。県大会入賞数は目標を大幅に上回った。
- 各学年の加入率は、1年生 80.8%、2年生 75.6%、3年生 77.1%と、昨年度より減少した。

(2) 課題

- 部活動に入部していない生徒に対して、入部させ活動させることが課題である。

【今後の改善方策】

- 部活動に加入していない生徒には、担任、副担が学年会と協力しながら、部に参加することを促す。

3 教職員の指導力向上の推進					
学校全体で主体的な学びの推進し、組織的に授業改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な研究授業テーマを提示し、全教員が実践する。 ・研究授業週間中に、全教員が他教員の授業を最低1回は見学する。 ・授業アンケート結果から生徒の学習状況を把握し、授業改善を図る。 	研究授業の参加割合 50%	41%	B	6月実施の第1回公開研究授業(授業見学・研究協議)に、41%の教員が参加した。11/2 第2回公開研究授業でさらに参加割合を増やす。
		授業評価アンケートの肯定的な評価割合 70%	—	B	昨年度、座学科目から開始した授業アンケートを、今年度は実習科目も含め、全科目で初の実施。第1回授業アンケートを2学期中間考査前後で実施し、11月初旬に集計予定。
教務部 教育研究部 教科・学科					

《研究授業等に参加し、授業改善を図る》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 教育研究部との連携・協力により、第一学期研究授業週間での校内教員の授業参観割合は51%、また、第1回公開研究授業の参加割合は41%で、昨年度より参加の割合は増加した。
- 6月実施の第1回公開研究授業参加者は、授業見学・研究協議ともに、昨年度に比べて増加した。
- 第一学期研究授業週間での本校教員の授業参観割合や第1回公開研究授業の参加割合の増加から、主体的な学びを取り入れた授業の実践に対する本校教員の意識が拡大しつつある。
- 授業アンケートは、現在すべての教科・科目において調査中である。

(2) 課題

- 第一学期研究第2回公開研究授業(11/2)でさらに参加割合を増やしたい。
- 授業週間ならびに公開研究授業が一行事的にこなしている感覚がある。
- 日常の授業において、生徒への疑問の投げかけや、それに答えさせる場面はあるが、そこからさらに、生徒が能動的に課題を発見したり、解決しようとする行動につながっていない。

【今後の改善方策】

- 第二学期研究授業週間の設定ならびに公開研究授業の実施について、それらの意義とねらいを学校全体で確認し、参加の啓発を図りながら授業改善につなげていきたい。
- 生徒に授業のねらいや、学習のつながりを具体的に示すことで学習内容に興味・関心を持たせる。
- 課題の発見や、解決的な学習活動をする場面を、意図的に組み込んだ授業づくりを実践する。

4 安全・安心・清潔な学校づくり						
安全で清潔な学習環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の整理整頓を定期的実施(生徒の自主的な環境整備を目指す) ・生徒保健委員会の充実 	大掃除実施数 12回	7回	A	計画通り実施していて、常に校内美化は保たれている。	保健厚生部
	<ul style="list-style-type: none"> ・早期の学級担任、保護者との連携(生活習慣の改善) ・遅刻ゼロ週間での取り組み強化 ・生徒指導だよりの発行 ・生徒指導に係る教材の作成 	年間1日平均遅刻件数128(人/日)以下	0.80(人/日)	B	(生徒指導部) 全体的に浸透してきているが、まだ意識が低い部分がある。 (1学年会) ・生徒には日頃の SHR や終礼はもとより、集団宿泊訓練や学年集会等を通して高校生活のあり方や規律を指導した。また保護者への連絡は早期に適宜行うようにした。	生徒指導部 1学年会

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- 校内美化は常に保たれており、来校者からも、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。
- 体育祭前に、グラウンドを使用しているクラブ(教員・生徒)が、自主的に草刈りを行った。

(2)課題

- 継続して、学校の環境・衛生を良くするため、安全で清潔な環境で学べるよう、校内の美化を保つ必要がある。
- 自主的・主体的に環境整備に取り組める生徒の育成が必要である。

【今後の改善方策】

- 「自分たちの学ぶ場は自分たちできれいに」「掃除のできる生徒に」「常に来校者を迎えられる環境に」と自主的・主体的に取り組めるよう、年度後半についても、計画どおり、校内美化活動をしっかりと丁寧にかつ組織的に実施する。

＜基本的な生活習慣の確立＞

【評価結果の分析】

(1)成果

- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は、0.80 件(人/日)と、目標値より上回る結果である。近年減少傾向にあり、登校遅刻があまり減少していない。特定のクラス、生徒で複数の「体調不良」、「寝坊」という理由がある。
- 授業遅刻に関して、前年度比-65 件と減少した。減少した理由に集団で遅れるとケースが減少した。未だに、「トイレ」での退出で遅れる(中抜け)がある。
- 問題行動に関して、前年度比-9件減少した。例年より件数は少ないが「これくらいなら大丈夫」という軽率な言動が、問題行動に発展している。

(2)課題

- 一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。
- 登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。

【今後の改善方策】

- 生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。
- 頭髪服装指導、校門指導、巡回指導を継続して実施する。より密な教職員間の連携、情報共有を行い組織的に指導していく。

5 生徒の進路希望を実現						
就職希望者の内定率 100%, 学校長推薦者・ 大学進学者の学力向 上, 3学年生徒の進路決 定率 100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去問題の収集と内容の分析 ・生徒への的確な情報提供 ・面接等の指導体制の改善 ・大学等の入学までのより具体的 な目標設定の徹底 ・個別面談を通して学習への動 機づけ 	就職試 験一次 合格率 95.0%	93.3%	B	(進路指導部・3学年会) 就職試験一次合格率は 93.3%となり, 昨年度と同水 準となった。学校長推薦者・ 大学進学者の1学期5 段階平均は4.21となり, 昨 年度を大きく上回った。山口 大学に2名が合格した。 (3学年会) 進路実現に向けたLHRを4 回, 就職希望者の履歴書・ 面接指導, 進学希望者の自 習室指導を, 夏休みの多く の日で行った。学習状況に 基づき進路についての三者 面談を6・8月に実施した。	進路指導部 3学年会
		3学期末 5段階平均 3.94	—			
		3年1学期 5段階平均 4.00	4.21			

《就職希望者の内定率 100%, 進学希望者の合格率 100%を達成する》

【評価結果の分析】

(1) 成果

- 就職希望者の内定率は 93.3%となり, 高水準となった。
- 第1期(9月30日 採用試験)時点で, 縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者 210名中, 193名の生徒が1回目の採用試験で内定した。
- 担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導, 学科教員の専門教科の補習, 進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補習・定期考査毎の受験計画指導により, 高く目標を持ち計画的にAO入試から頑張ろうとする生徒が増え, 自主的に学ぶ雰囲気が高まった。
- 進路探究について, 進路LHR, 進路希望調査, 三者懇談, また応募前見学, オープンキャンパス参加を促し, 的確に情報を提供した。
- 進学者の学力向上のために, 学習室における個別指導及び補習を計画的に実施した。学力については, 成績等, 現在, 調査中である。

(2) 課題

- 就職一次試験の不合格理由について, 筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し, 不合格生徒への取組みが必要である。

【今後の改善方策】

- 第1期就職試験不合格生徒については, 個別の面接指導, 応募前見学, 筆記試験対策の指導に取り組む。
- 国公立大学等進学者を中心に引き続き, 学力試験及び小論文, 志望理由書, 面接等の指導を徹底して行う。
- 進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに, 個別相談・指導等も実施する。

平成 29 年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	------	-----	----

1 評価結果の分析

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を 52 名以上とする》

- ジュニアマイスター認定者数は、本年度前期が 23 名と、昨年度前期と同数だが、ゴールドの人数が増加した。
- 年度当初に取得できる資格・検定の試験日程一覧表を作成し、クラス掲示した。
- 資格取得ネームプレートを5月に開始し、随時更新しつつ、運用している。
- ジュニアマイスター認定に向け、各自の意識をさらに高め、機運を高めていかなければならない。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

- 高校生ものづくりコンテスト 測量部門は4年連続、木材加工部門は3年連続、化学分析部門は2年ぶりに出場する。
- 若年者ものづくり競技会 職種プライス盤作業に広島県代表として参加し、参加者 28 名中、敢闘賞(10 位)を受賞した。
- 高校生ものづくりコンテストについては、3部門が全国大会出場となったが、全国大会出場に向け、さらなる技能向上の取組が必要である。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

- SET及び専門的知識・技術を持つ地域の社会人特別非常勤講師には、授業において専門の技能向上に係る指導を行っていただいた。SET には放課後も広島県版技能検定、国家技能検定対策について、生徒に指導をしていただいた。
- SET、企業の熟練技能者の指導により、生徒の知識や技術・技能が向上し、資格・検定取得につながった。
- 生徒の技能向上には、本来指導する教職員自身がスキルアップしていくことが必要である。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

- 学科推奨の資格・検定取得の啓発や指導に取り組んだ結果、機械科は 21 人、電気科が 73 人、建築科 36 人、土木科は 7 人、化学工学科は 7 人合格した。5学科中4学科の合格者が増加した。
- 資格合格者の増加と、上級の資格取得のための指導にはさらなる教職員の指導力向上が必要である。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

- 広島県内の中学生が減少する中、昨年度と同水準の参加状況となった。
- オープンスクールに参加した中学生のオープンスクールの内容に対する肯定度は 98.6%で昨年度を上回ることができた。
- 中学生参加人数増加に向けた取組が必要である。

＜クラブの活性化＞

- 全国大会出場は昨年より増え、中国大会出場については昨年度並みである。県大会入賞数は目標を大幅に上回った。
- 各学年の加入率は、1年生 80.8%、2年生 75.6%、3年生 77.1%と、昨年度より減少した。
- 部活動に入部していない生徒に対して、入部させ活動させることが課題である。

《研究授業等に参加し、授業改善を図る》

- 教育研究部との連携・協力により、第一学期研究授業週間での校内教員の授業参観割合は51%、また、第1回公開研究授業の参加割合は 41%で、昨年度より参加の割合は増加した。
- 6 月実施の第 1 回公開研究授業参加者は、授業見学・研究協議ともに、昨年度に比べて増加した。
- 第一学期研究授業週間での本校教員の授業参観割合や第1回公開研究授業の参加割合の増加から、主体的な学びを取り入れた授業の実践に対する本校教員の意識が拡大しつつある。
- 授業アンケートは、現在すべての教科・科目において調査中である。
- 第一学期研究第 2 回公開研究授業(11/2)でさらに参加割合を増やしたい。
- 授業週間ならびに公開研究授業が一行事的にこなしている感覚がある。
- 日常の授業において、生徒への疑問の投げかけや、それに答えさせる場面はあるが、そこからさらに、生徒が能動的に課題を発見したり、解決しようとする行動につながっていない。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

- 校内美化は常に保たれており、来校者からも、オープンスクールのアンケート結果でも、“校内がきれいである”と肯定的な意見が多かった。
- 体育祭前に、グラウンドを使用しているクラブ(教員・生徒)が、自主的に草刈りを行った。
- 継続して、学校の環境・衛生を良くするため、安全で清潔な環境で学べるよう、校内の美化を保つ必要がある。
- 自主的・主体的に環境整備に取り組める生徒の育成が必要である。

＜基本的な生活習慣の確立＞

- 登校遅刻に関して、1日あたりの件数は、0.80 件(人/日)と、目標値より上回る結果である。近年減少傾向にあり、登校遅刻があまり減少して

いない。特定のクラス、生徒で複数の「体調不良」、「寝坊」という理由がある。

○授業遅刻に関して、前年度比-65件と減少した。減少した理由に集団で遅れるとケースが減少した。未だに、「トイレ」での退出で遅れる(中抜け)がある。

○問題行動に関して、前年度比-9件減少した。例年より件数は少ないが「これぐらいなら大丈夫」という軽率な言動が、問題行動に発展している。

○一部で、登校遅刻や授業遅刻という生活習慣や授業規律という部分を軽視している部分があり、生徒に規範意識を醸成させる必要がある。

○登校遅刻及び授業遅刻の減少、遅刻ゼロ日を増加させる。

《就職希望者の内定率 100%、進学希望者の合格率 100%を達成する》

○就職希望者の内定率は93.3%となり、高水準となった。

○第1期(9月30日採用試験)時点で、縁故・自己開拓・公務員・自営を除く就職希望者210名中、193名の生徒が1回目の採用試験で内定した。

○担任・3学年教員による進学希望者の志望理由・面接指導、学科教員の専門教科の補習、進路指導部の2年3学期からの放課後受験対策補習・定期考査毎の受験計画指導により、高く目標を持ち計画的にAO入試から頑張ろうとする生徒が増え、自主的に学ぶ雰囲気が高まった。

○進路探究について、進路LHR、進路希望調査、三者懇談、また応募前見学、オープンキャンパス参加を促し、的確に情報を提供した。

○就職一次試験の不合格理由について、筆記試験と面接試験のどちらが主な原因なのか検討し、不合格生徒への取組みが必要である。

○進学者の学力向上のために、学習室における個別指導及び補習を計画的に実施した。学力については、成績等、現在、調査中である。

2 今後の改善方策

《各種資格・検定試験の受験者数・合格率の向上を図り、ジュニアマイスター認定者数を52名以上とする》

○資格取得ネームプレートで上位資格取得者を掲示し、ジュニアマイスター認定を啓発する。

○学年会で、各生徒の合格状況やジュニアマイスターの得点を把握し、生徒に伝えることで、ジュニアマイスター認定を啓発する。

《ものづくりコンテストでの入賞・優勝を目指す》

○出場する選手の技術・技能向上が進んでおり、簡単に上位に入ることが難しくなっている。安全作業を徹底しながら、加工及び作業精度を上げるなど、すべての面で質の高い練習を実施する。

○社会人外部講師であるSETを活用して、生徒とともに教職員も教授いただく。

《実践的な知識・技術・技能を身に付ける》

○教職員自身が、資格や技能検定の取得や、各種技能に係る研修会への参加により、技術・技能の指導力を高め、SETと協力して生徒の技術・技能の育成に取り組む。

《各学科が推奨する工業分野の資格を取得する》

○教職員が、技能検定等に係るセミナーに参加し、広島マイスターや熟練技能者の卓越した技術・技能を学びながら、指導力の向上を図る。

《入学希望者の増加を目指す》

＜中学生へのPR活動の実施＞

○本校の各中学校担当者が、中学校教員と密に連携し、中学生の参加を募る。

○中学生が、高校について知りたい、教育内容、主な行事、部活動、進路状況など掲載したリーフレットやポスターを作成し、教室に掲示していただき、本校の魅力ある情報を提供する。

＜クラブの活性化＞

○部活動に加入していない生徒には、担任、副担が学年会と協力しながら、部に加入することを促す。

《研究授業等に参加し、授業改善を図る》

○第二学期研究授業週間の設定ならびに公開研究授業の実施について、それらの意義とねらいを学校全体で確認し、参加の啓発を図りながら授業改善につなげていきたい。

○生徒に授業のねらいや、学習のつながりを具体的に示すことで学習内容に興味・関心を持たせる。

○課題の発見や、解決的な学習活動をする場面を、意図的に組み込んだ授業づくりを実践する。

《安全で清潔な学習環境をつくる》

＜美化活動の徹底＞

○「自分たちの学ぶ場は自分たちできれいに」「掃除のできる生徒に」「常に来校者を迎えられる環境に」と自主的・主体的に取り組めるよう、年度後半についても、計画どおり、校内美化活動をしっかりと丁寧にかつ組織的に実施する。

《基本的な生活習慣の確立》

○生徒の意識向上も必要だが、教員の意識向上も必要である。生活及び授業での規律指導を徹底する。

○頭髪服装指導、校門指導、巡回指導を継続して実施する。より密な教職員間の連携、情報共有を行い組織的に指導していく。

〈就職希望者の内定率 100%, 進学希望者の合格率 100%を達成する〉

- 第1期就職試験不合格生徒については、個別の面接指導、応募前見学、筆記試験対策の指導に取り組む。
- 国公立大学等進学者を中心に引き続き、学力試験及び小論文、志望理由書、面接等の指導を徹底して行う。
- 進路探究に関する意識を高める情報提供や指導を学年全体で取り組むとともに、個別相談・指導等も実施する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

学校関係者評価においては、目標設定、取組み、評価結果の分析、今後の改善方策等、概ね適切であると評価された。しかし、次のことについて、御質問があり、それに対し、以下のとおり、改善に取り組む必要がある。

〈問題行動について〉

- ◇ 中学校ではSNSに係る問題が多いが、高校ではどうか。(学校関係者評価委員による質問)
- 本校においてもSNSに係る問題はある。当該生徒や保護者、関係機関と連携し、適切な生徒指導に取り組む、問題の解決を図る。

〈授業について〉

- ◇ 中学校では、旧態依然とした授業が多いが、高校ではどんな授業をしているのか。(学校関係者評価委員による質問)
- 主体的な学びを促す授業を実践している。今後も、生徒に授業のねらいや、学習のつながりを具体的に示すことで、学習内容に興味・関心を持たせ、それらを意識しながら授業の適切な場面でグループ学習、ペア学習、学び合いを取り入れ、学習の理解の深化を図る授業を実践する。

学校関係者評価委員からは、さらなる飛躍を期待されており、全教職員一丸となって取り組みたい。

平成 29 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 29 年 10 月 18 日

校番	81	学校名	広島工業高等学校	校長氏名	唐立 慎二	全日制	本校
----	----	-----	----------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	・資格取得について、全部ではないが、合格者数だけでなく、受験者数があるとわかりやすい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	・見通しが詳しくわかれば評価しやすい。 ・後半へ向けて、様々な数値目標へ近づいていくことを期待している。根拠資料
目標達成に向けた取組の適切さ	B	・資料だけでは見えない部分もある、結果が伴わなかったが成長している生徒もいる。粘り強く生徒を育ててもらいたい。
評価結果の分析の適切さ	B	・各分析の結果を踏まえ、修正をかけながら、後半の頑張りを期待しています。
今後の改善方策の適切さ	B	・生徒たちが主体的な行動ができるよう、したくなるような指導を引き続きお願いしたい。1
総合評価	B	・Aに近いBである。今後の取組に期待をしている。